

ジオさんぽ仙台 2026 当日のレポート

開催日：2026年4月4日（土）

場所：仙台市街地（河原町～榴ヶ岡付近）

参加者：14名（案内者1名、幹事7名）

1. はじめに

東北支部のアウトリーチ活動として不定期に実施している「ジオさんぽ」ですが、今年は桜の季節である4月4日に開催しました。当日は曇り空で肌寒く、途中で雨の予報もありましたが、天候が大きく崩れる前に全行程を終えることができました。

今回は、岩手大学の岡田先生^{*}を案内者にお迎えし、「街中を貫く活断層」をテーマに、地表に現れた段差（地殻変動の痕跡）を実際に歩いて体感する内容としました。

（^{*}岩手大学工学部理工学科准教授。活断層の構造解析や地震・津波の履歴調査などを専門とする。）



長町ー利府線断層の断層崖を背景にした集合写真

2. 見学コース

(1) STOP0-広瀬川宮沢緑地（集合場所）

受付後、立体地形図を囲みながら、仙台市街地に見られる段丘面や段差地形、撓曲による高まりなど断層によって形作られる地形の特徴を岡田先生に説明していただきました。

また、出発前には村上幹事が作成・準備した断層模型を用いた実験が行われ、圧縮によって形成される地形の高まりおよび逆断層の形成過程を視覚的に観察することができました。



断層の形成実験（地層は小麦粉やココアなどを重ねたもの）

その後、STOP1 へ向かう途中で、下町段丘と中町段丘の境界にあたる段丘崖を観察しました。周辺は宅地造成により人工物で覆われていますが、段差地形としてその面影を確認することができます。



段丘崖を前に

(2) STOP1-荒町周辺（大安寺）

宮沢根白石線沿いの緩やかな坂道を上り、大安寺付近へ移動しました。この周辺は、断層活動により隆起したと考えられる高まりが見られる場所です。

近年の道路整備や住宅開発により地形が大きく改変されていますが、実際に歩くことで隆起地形の存在を体感することができました。

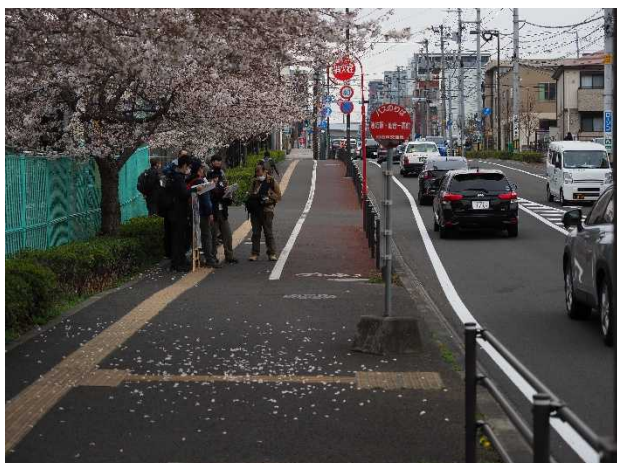


宮沢根白石線沿いの段差地形（2段ある？）

(3) STOP2 連坊駅周辺

地下鉄東西線・連坊駅から仙台第一高等学校付近にかけては、長町一利府線断層による隆起地形が確認できます。

この付近では、断層に直交する東西方向の道路が延びており、連坊駅周辺から西側へ向かうにつれて道路標高が高くなる様子を観察できます。



仙台第一高等学校正門前付近から西側を望む。
道路が途中から高くなっている。

(4) STOP3 榴ヶ岡

STOP2 から宮沢根白石線を北上し、榴ヶ岡公園西端へ移動しました。ここはかつて大年寺山断層の露頭が確認された場所で、断層より東側（榴ヶ岡公園側）が相対的に約5m高くなっています。

現在は宅地造成により露頭そのものは消失していますが、比高約5mの坂としてその痕跡を読み取ることができます。



断層露頭跡付近での説明

(5) STOP4 清水沼公園

榴ヶ岡周辺の地形の高まりの北側に位置する清水沼公園へ移動しました。ここは戦前、湧水が豊富でその清水をビール工場などで利用していたとことです。この湧水は、仙台市街地西側の段丘礫層中を伏流する地下水が大年寺山断層によって阻まれることによって地下水位が高くなり湧き出していたと考えられています。ただし、現在はその沼は埋め立てられており、公園としてその名残をとどめています。

この頃から雨が降り始めたため、少し足早にSTOP5へ向かいました。



清水沼公園内にて

(6) STOP5 宮城野原周辺

小雨の中、清水沼から五輪方面を通るルートで宮城野原駅付近へ移動しました。このルートは断層撓曲地形を横断する形となり、歩きながら地形の高まりを実感することができます。

宮城野原駅周辺では、長町一利府線断層付近の地形の特徴や、宅地・商業施設・学校など土地利用の状況を確認しました。断層が推定されている場所に、学校や商業施設、高層住宅などが建設されていることに驚きを感じます。その後、雨脚が強くなってきたため、やや速足で榴ヶ岡公園へ戻り、南側の段丘浸食崖を上って噴水広場に到着し、解散となりました。



榴ヶ岡公園内の噴水広場にて

3. 最後に

当日は肌寒く雨の予報もある中での開催となりましたが、行程をややタイトにしたことも功を奏し、終盤までは天気が持ちこたえてくれました。開花し始めた桜をゆっくり楽しむことができなかったのは残念でしたが、予定していたコースを無事に巡ることができました。

また、岡田先生の丁寧な解説を聞きながら、仙台市街地を通る断層がどのように地形をつくっているのかを実際に歩いて体感できたことは、大変有意義な経験となりました。

(文責：初貝)